

最新の傾向と対策についてのアンケート調査&座談会

FOREFRONT

通年性アレルギー性鼻炎 への対応

通年性アレルギー性鼻炎に対する治療は、抗原の除去・回避、薬物療法、手術療法などの対症療法が中心に行われてきましたが、ダニ舌下免疫療法が2015年に保険適応となり、治療選択肢の幅が広がりました。根治が期待できる唯一の治療法とされ、2018年には小児への適応も拡大されたことから、今後、急速に普及が進むものとみられています。

こうした状況をふまえ、通年性アレルギー性鼻炎の患者や治療の動向を探るべく、アレルギーへの関心が高い実地医家60人(耳鼻咽喉科・内科・小児科)を対象にアンケート調査を実施しました(有効回収数54人)。

本座談会では「通年性アレルギー性鼻炎への対応」をテーマに、大久保公裕先生(日本医科大学大学院医学研究科頭頸部・感覚器科学分野)ご司会のもと、浅香大也先生(浅香耳鼻咽喉科クリニック)、平野康次郎先生(昭和大学医学部耳鼻咽喉科学講座)をお迎えし、アンケート結果をもとに通年性アレルギー性鼻炎診療の現状や課題をご討議いただきました。

企画

大久保公裕 (日本医科大学大学院医学研究科頭頸部・感覚器科学分野 教授)

アンケート期間

2019年2月20日～2019年3月26日

対象・人数

アレルギーへの関心が高い実地医家60人
(耳鼻咽喉科医・内科医・小児科医各20人)

有効回収数

54 / 60人 (コメントは一部抜粋)